

## 第 1 回 学校運営協議会 議事録

### 1. 校長挨拶(学校経営方針の説明)

校長より、今年度の重点目標および学校運営の方針について以下の通り説明があった。

- **重点 3 項目:** 昨年度より生徒に対して「挨拶をする」「時間を守る」「整理整頓をする」の 3 点を重点的に指導している。
- **グランドデザインへの反映:** 今年度の「学校要覧」のグランドデザインにおいて、「じっくり育て」という部分に上記 3 項目を明確に掲げ、学校としての重点方針とした。
- **今後の展望:** 教員の意識改革も進んでおり、今後は生徒自身の自律的な動きも加えて、学校全体の向上を目指していく。

### 2-1. 出席者・委員紹介

出席した委員および関係者より、自己紹介と抱負が述べられた。

- **矢口台小学校 田巻校長:** 今年度 4 月に着任。小学校からの進学後の様子を把握し、連携を深めたい意向。
- **大野南中学校 及川校長:** 着任 3 年目。地域教育のために引き続き協力を継続する。
- **第 2 代校長 加賀大学氏:** 第 2 代の校長として出席。
- **相模女子大学高等部 武石校長:** 高等部校長として 5 年目(昨年度より中高別々の校長制)。近隣校としての情報交換を重視。
- **PTA 会長 萩原氏:** 会長 3 年目(役員 4 年目)。保護者の立場から参加。
- **玉川大学教授 坂野氏:** 大学の授業のため、16 時 15 分頃に到着・合流

### 2-2. 学校担当職員紹介

### 3. 役員選出および組織体制

- **役員選出:** 昨年に引き続き、会長を加賀委員、副会長を坂野委員に委嘱することが承認された。
- **組織体制:** 学校評価部会を以下の 2 つの部会に分けることが示された。
  - 「しっかり学び、ゆっくり探る」部会: 教務・キャリアグループ等が担当。部会長は坂野委員。
  - 「じっくり育てる」部会: 生徒会・生徒支援グループ等が担当。部会長は加賀委員。
- **年間計画:** 第 3 回会議は、例年卒業式と重なり委員の出席が困難であるため、書面開催とする案が提示された。

### 4. 学校運営方針および昨年度の実施結果報告

各担当者より、資料に基づき重点的な取り組みが報告された。

- **教務グループ(学習指導):**
  - 6 年間の見通しを持った指導の体系化と、ルーブリック(評価指標)を活用した授業研究を継続する。
  - 他校(スクールクロス加盟校等)との交流や、点数だけでなくコミュニケーションを重視した英語教育の推進。
- **生徒支援グループ:**
  - 重点 3 項目(挨拶、時間、整理整頓)の定着を図る。
  - カウンセリング体制の充実。相談件数の増加に伴い、教育相談会議を月 2 回以上確実にを行い、情報の共有を密にする。

- **生徒会グループ:**
  - 重点3項目を生徒の「自治活動」に繋げるため、掲示物や説明会を通じた意識付けを行っている。
- **キャリア支援グループ:**
  - 昨年度卒業生(150名)の進路状況を報告。東大合格者10名(過去最高)を含む高い進学実績の一方で、偏差値だけでなく「何をやりたいか」を基準に自律的に進路を選択する生徒が増えている。
- **総務グループ(地域連携・防災):**
  - 相模原南消防署と連携した防災訓練(煙体験、消火器訓練等)や、各学年による地域清掃活動の実施状況を報告。
  - 近年の地震や台風を踏まえ、地域住民の受け入れ態勢や職員の意識向上に努める。
- **企画グループ(学校説明会):**
  - 生徒が自身の言葉で伝える説明会を継続。あえて「課題が多い」「進みが早い」といった「学校の大変な面」も包み隠さず伝えることで、入学後のミスマッチを防ぐ取り組みを行っている。
- **副校長補足(働き方改革):**
  - 職員の勤務時間の適正化について。4月・5月に時間外勤務が一時的に増加した傾向を踏まえ、引き続き注視し改善を図る。

## 5. 主な質疑応答・意見交換

- **挨拶の意義について:**
  - **委員:** 挨拶を重視する具体的な狙いは何か。
  - **学校側:** 相手へのリスペクトを示すコミュニケーションの土台であり、人間関係の潤滑油であると考えている。また、社会でリーダーとして活躍するために不可欠な要素として指導している。
- **ミスマッチ防止の取り組みについて:**
  - **委員:** 学校の課題(大変な点)をあえて提示する視点は素晴らしい。保護者からも、塾や部活との両立に不安を感じる声があるため、先輩の実体験を伝えることは有効である。
- **生徒・教員のウェルビーイングについて:**
  - **委員:** 数値上の評価だけでなく、教員がやりがいを感じているか、生徒が学校を楽しめているかという「ウェルビーイング」の視点を大切にしてほしい。
- **不登校・保健室対応について:**
  - **質問:** 不登校傾向の生徒の現状はどうか。また、カウンセリングを受けた際の出席扱いの制度はどうなっているか。
  - **学校側:** 不登校数は例年と大きく変わらない。カウンセリングについては、学習の保証として「出席扱い」にできるシステムがあり、ケース会議等で判断している。

## 6. 閉会

- 次回(第2回)は10月頃を予定。第3回は前述の通り書面開催の可能性も含め検討する。